

花畑広場の用地買収すすまず、「産業文化会館」解体の不当性が浮き彫りに！

10月29日、産業文化会館解体の差止請求裁判で、上野みえこ議員が「産文会館解体の不当性と、ルール違反の広場用地取得」について意見陳述

市が定めた「予算編成のルール」を踏まらずに、無理やり予算化

「平成25年度予算編成方針」では、「用地購入については、経営戦略会議に付し、予算要求を認められたものに限る。」また、「事前に用地担当課と協議し、単価や権利関係について十分に精査すること」と決められています。ところが、花畑広場用地の取得の案件は、予算が編成された年度の経営戦略会議の議事録・メモ・資料のすべてに審議した形跡が全くありませんでした。

「先行用地取得会計」での用地取得という、異例のやり方での予算化

「先行用地取得会計」は、バブルの頃、先々土地代が上がるので、10年以内に事業化する土地について、特別会計を設け、先に取得するというものです。現在は、むしろ土地の価格が下がっているため、この手法による用地取得はほとんどなく、過去10年以上取得実績はありません。

しかも、先行用地で予算化した用地費を、年度途中の9月議会で、国の補助内示に伴い一般会計に組み替えられました。

平成25年度の予算に計上される「平成25年度公共事業等に要する用地取得計画」に、サンビル・フラワービル用地は入っておらず、審議の対象から外れていました。それが、予算を審議する3月議会の直前、当初予算編成の仕上げとなる市長査定で、予算に加えられました。予算編成方針を踏まえないルール違反の用地費予算化は、市長の責任が問われる問題です。

当該年度に予算執行できない土地を、先行用地で予算化する必要はありませんでした。補助内示が出た時に補正予算で提案するというのが一般的なやり方です。このような予算化の仕方は他に例がありません。予算は単年度主義が原則です。まともな手順を踏まらずに急ぎ予算化したことが、未執行という結果を生んでおり、異例づくめの広場用地の予算化は、問題です。

「フラワービル」の用地買収は手つかず…見通しのない花畑広場計画

予算編成方針に明記された用地課との協議や単価、権利も含めた事前の精査が行われていれば、予算執行にゴーサインが出された昨年の「桜町・花畑地区再開発事業の附帯決議に関する特別委員会」での審議終了後、速やかに用地買収は進んでいたはずですが、ところが、ルールを曲げて予算化した用地費は年度内に執行されず、今年度に繰り越されました。しかも、今年度すでに半年以上経過しながら、フラワービル用地は一向に買収のめどが立っていません。

用地取得の事前準備がまともにできていないのに、なぜ予算化だけが急がれたのか全く不明です。

フラワービル用地の取得は極めて困難になっており、広場整備の頓挫も考えられます。そうなれば、産文閉鎖や解体に使った6億円ものお金は全く無駄になってしまいます。熊本市は、設計費用等に1億円以上もつぎ込んで破綻し、全てを無駄にした「花畑地区再開発」の反省が全くありません。

(控室から)

食欲の秋に思うこと 益田牧子

私が家族の夕食などをつくるようになったのは、小学六年生からでした。先生は、骨肉種で左腕を切断し、障がい者になった祖母でした。最初のメニューは、「だご汁」。学校から帰り、近くの菜園を見回り食材調達。毎日がアジ、サバ、イワシの魚料理でした。中学・高校時代は、本を片手に料理を作りながら、プロパンガスコンロ、水道へと変わりました。看護・保健婦学校時代は、寮生活で、食事をつくることはありませんでしたが、私の取柄は、味はともかく、「料理を作るのが早いこと」です。

最近では、娘の子ども達の保育園の運動会の弁当作りをきっかけに、「お弁当作り」を楽しみにしています。ほとんど昼・夜は外食ですが、水曜日の市役所前朝宣伝では、弁当を持参します。宣伝の幟持ちにボランティアで来てくれる青年達と一緒に朝ごはんを食べるためです。「おいしい、おいしい」とお世辞でも言ってもらうことが励みになります。食事は、家庭の文化でもあり、なにより、食べることは楽しみであり、元氣と健康の素です。食欲の秋、野外で弁当を開き楽しみたいものです。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか
熊本市中央区手取本町1-1 議会棟

NO. 923
2014年11月2日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



市民のいのち・暮らしを守る市政へ転換を！

「日本一住みやすい」政令市に逆行！

特定健診有料化（1000円）に続き65歳以上のインフルエンザ予防接種も無料⇒1000円

熊本市は、特定健診有料化（非課税世帯のみ無料）に続いて、本年10月からこれまで無料だった65歳以上のインフルエンザ予防接種を一挙に1000円に引き上げました。その理由は、「自らの病状の重症化を軽減するため」と「他の政令市も自己負担を行っている」の2つを挙げています。その本当の狙いは、市民の健康より、自己負担により、6000万円の経費削減にあります。「健康の自己責任論」は、熊本市の「健康都市宣言」の精神にも反し、「日本一住みやすい政令市」にも逆行しています。日本共産党は、受診率低下につながる65歳以上のインフルエンザワクチン有料化に反対し、特定健診無料化により、受診率を向上させた宇土市の視察も行い、「熊本市でも3000万あれば実現できる」と繰り返し特定健診無料化を要望してまいります。

【政令市における特定健診自己負担無料化の状況】

（無料）仙台市、さいたま市、静岡市、名古屋市、大阪市、北九州市
（条件付無料）

- 60歳以上・非課税：新潟市、
- 65歳以上：京都市・神戸市（非課税も）・堺市（非課税も）
- 70歳以上・非課税：相模原市・広島市・福岡市、
- 非課税のみ：熊本市、札幌市

1979年10月1日制定「健康都市宣言」より

都市化の進展に伴い市民生活を支える基本である心身の健康を阻害する要因は増大している。熊本市は、市民と共に明るく健康な都市をめざして諸施策を結集し、その実現に努めなければならない。

政令市の中でも遅れた福祉の増進を！

市民要望1位は政令市3番目に重い国保料引き下げ

モデルケース4人世帯（40歳以上夫婦、こども2人）、所得200万円

順位	都市名	国保料（14年度）	1人当たり繰入額
1	堺市	41万5940円	165円
2	京都市	39万4574円	8148円
3	熊本市	38万7110円	17128円
4	福岡市	38万5800円	14113円
5	岡山市	37万9560円	18042円
...			
16	名古屋市	28万1410円	12376円
17	仙台市	27万9320円	14525円
18	相模原市	27万7800円	23804円
19	神戸市	26万5510円	8298円
20	広島市	20万4931円	9044円

ガソリン券助成は所得制限なしで増額実施を！

都市名	券額面	交付枚数	1回使用枚数	ガソリン券金額	所得制限
札幌市	1000円	30枚	複数枚	3万円	なし
仙台市	1000円	30枚	制限なし	3万円	<u>あり</u>
新潟市	—	—	—	2万5920円	なし
千葉市	500円	40枚	制限なし	2万円	なし
相模原市	1000円	24枚 12枚	2枚まで "	2万4000円（本人運転） 1万2000円（家族運転）	なし
さいたま市	燃料1ℓにつき50円の補助			1万2000円	なし
浜松市	—	—	—	7000円	なし
熊本市	未定	未定	未定	1万2000円(予定)	<u>ありを検討中</u>